

南アフリカ 2024年の柑橘類シーズンが異例のスタート

[FreshPlaza 2024年4月19日](#)

南アフリカの柑橘類生産者らがサイズの面で生産量を把握するのに苦労する中、2024年の出荷シーズンが少し変わった形でゆっくりと始まっている。これは、昨年末の生育期に非常に暑かったためである。しかし、柑橘類生産者協会(CGA)のジャスティン・チャドウィックCEOは、今後雨が降るとサイズの状況は大きく変わる可能性があるとして、「早春には雨が降り、11月から12月にかけての生育期には非常に暑かったため、多くの不確実性がある。今シーズンは異例で、生産者らはサイズの面で出荷量を把握するのに苦労している。少し雨が降れば、状況が変わる可能性がある。果実のサイズが1段階下がると、果実の重量は10%失われ、出荷量に大きな影響を与える可能性がある」と述べた。(以下「」は同氏の発言)

同氏は、CGAは今シーズンの最初の出荷見通しを発表したが、同協会の見通しはこれまで正確であったと言う。

「多くの不確実性がある。果実を梱包する中で4月の終わりに向けてより確かな見通しが得られ、5月の終わりにはさらに確かな見通しが得られるだろう。今年は非常に早く、イースターの後には本格的な梱包が始まった。出荷シーズンの始めにはレモンからスタートし、すでに300万箱以上を梱包した。その次はグレープフルーツで、現在動き始めている。その後、うんしゅうみかん、クレメンタインが続き、そしてすぐにネーブルオレンジが始まり、さらにバレンシアオレンジに移行する。」

港湾と物流の課題は残る

南アフリカの港湾と物流の課題は残っている。トランスネット(運輸公社)の新しいCEOであるミシェル・フィリップス氏とそのチームには、かすかな希望を持っている。政府を支援するために民間セクターが港湾運営に参加しているが、(調達に係る)裁判で行き詰まるだろう。「我々はフィリップス氏と同氏が率いるチームに全幅の信頼を寄せている。適切な支援と資金があれば、港湾の改善が見られるはずである。CGAのミッチェル・ブルック物流担当上級役員はトランスネットと毎日電話で話しており、これを続けることが非常に重要である。」

新規市場と拡大する市場アクセス

ベトナム市場は、南アフリカの2024年の出荷シーズンに間に合うように解放されたばかりである。チャドウィック氏は、当初の輸出量はそれほど多くないだろうが、この新しい市場で成長するだろうと述べている。「我々はベトナム市場を手に入れたばかりである。当初の輸出量は大きくないが、輸出業者が取引経路を開拓してネットワークが改善すれば、数量が増加し始めるだろう。」

「我々はインドも重視している。輸送中の低温処理は許可されていないが、我が国の農業省及び青果物輸出認証機構(PPECB)と協力して行った取組みの成果により、この点については大きな可能性がある。」

「米国向けの柑橘類では、西ケープ州と北ケープ州しかアクセスがない。南アフリカの他の産地も、様々な品目についてアクセスを獲得できることを願っている。」

「日本はクレメンタインの輸入は認めているが、生産量が非常に増えている晩生のマンダリンの輸入を許可していない。我々の目標は、日本における既存の市場アクセスを最適化することである。」

南部アフリカのプロデューサーと輸出業者を代表してCGAが伝えるメッセージの要点は、すべての市場に供給するだけの豊富な果実があるということである。

「我々の果実を必要とするすべての市場に供給するだけの十分な量がある。今年は品質が良さそうである。時期が進むにつれてサイズを確認する必要があるが、改善してくるはずである。我々は物流業者と緊密に連携し、市場へのタイムリーな配送を確実にこなす。我々は、植物検疫の規制に不満があっても、その規制を確実に遵守する。我々の「ビジョン360*」で期待されている成長が実現することを楽しみにしている。」

(訳注*: 2032年までに柑橘類輸出量を2億6千万箱に増やすという業界の目標「ビジョン260」の誤りと思われます。)

執筆者: クレートン・スワート

(関連記事)南アフリカ産柑橘類 アジア市場の見通しはまちまち

[ASIAFRUIT 2024年4月19日](#)

アジア市場ではレモンとグレープフルーツは厳しいがオレンジの見通しは明るいと大手流通業者

南アフリカ産柑橘類のシーズンがアジアで始まり、主要な流通販売業者であるJWMアジア社によると、果実業界は主要品目について課題とチャンスの両方に直面している。

JWMアジア社の最高執行責任者(COO)であるフェリックス・ラム氏は、南アフリカ産レモンの出荷シーズンは困難なスタートを切ったと述べた。

同氏は本誌(Asiafruit Magazine)に対し、「現在、アジア市場は依然として中国産レモンで占められており、それらは非常に競争力のある価格で出回っている。しかし、中国産レモンの出荷量は5月までに減少すると見込まれるため、南アフリカ産レモンの需要が高まると予想している」と語った。(以下「」は同氏の発言)

香港は同社の主要なレモン市場の1つであり、同社は昨年、香港のレモンビジネスの豊かな歴史に触発されて、トゥエンテパートナーズ社とともに「レモンボーイ」ブランドを立ち上げた。

「香港政府観光局のデータによると、香港を訪れる観光客の数は徐々に回復しており、夏の訪れと相まって消費は着実に増加すると予想している。」

グレープフルーツに目を向けると、中国、日本、韓国がアジアの「伝統的3大市場」であるが、ラム氏によると、この数シーズンにわたって取引は困難が多い。

中国では主に加工向けに使用されるため、需要はクラス1から等級の低い果実にシフトしていると同氏は指摘し、日本では需要が軟化した。韓国ではこれからのグレープフルーツのシーズンについて慎重ながらも楽観的な見方があると付け加えた。

「韓国市場ではイスラエルと米国からの供給が減少したため、市場はすぐにでも南アフリカ産の取り扱いを始めることを歓迎している。」

「これに加えて、韓国政府の最近の関税免除政策(国内産果実の不足と価格高騰への対応策)により、南アフリカ産グレープフルーツについては6月30日まで輸入関税が課されず、これに対し市場は好意的な反応を示している。」

「そうは言っても、収穫物は小玉が多いと予想され、さらにコナカイガラムシの付着による輸入不許可の可能性も懸念されている。」

アジアでの南アフリカ産オレンジの見通しはこれ(グレープフルーツの状況)よりも明るく、今シーズンは好調なスタートを切ると予想される。「米国の出荷シーズンが早期に終了し、紅海の問題によりエジプト産オレンジとの競合が減ったことで、恩恵を受けるはずである。」

同社は、ベトナム市場が最近開かれたことから、同市場での南アフリカ産オレンジの可能性にも注目している。「ベトナムは、弊社が幅広い流通チャネルを確立し、最も急速に成長している市場の1つである。そのため弊社は、南アフリカ産オレンジのベトナム市場開拓の最前線に立つことを熱望している。」

執筆者: ジョン・ヘイ

訳注: 翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品等を推奨するものではありません